

「地域住民を対象としたユニバーサルデザインワークショップ等」取組事例①

ユニバーサルデザイン・おたがいさま運動研修会（品川区）

取組内容

- ユニバーサルデザイン・おたがいさま運動の基礎知識の学習、事例紹介及び理解促進
- 当事者の立場に立ち、何ができるのかを考え、実感することができる機会とすることを目的として実施

※取組の一例

取組事例	内容・目的
講義	座学により、ユニバーサルデザイン・おたがいさま運動の基礎知識を学ぶ
車いす、白杖体験	当事者とともに、車いすや白杖で移動することで、介助する側、される側それぞれの立場を学ぶ
補助犬ユーザー講習会	盲導犬や聴導犬のユーザー等の話を直接聞くことで、様々な立場の視点から、どんな時に手助けが必要かを学ぶ

取組のポイント

- 多くの人に参加してもらえるよう、あらかじめ決まった会議やイベント等と連携
- 基礎知識等に関する講義の部分は重要なポイントのみに絞り、体験型の研修や補助犬ユーザー等の講演会など当事者から直接話を聞く機会の比重を大きくしている
- プログラム作成に当たっては、身近な地域の道路や公園、校舎などの段差を使う、来客対応等を想定したシミュレーションを行うなど、身近な場所でどんな便利や不便があるのかを実感できるよう配慮している
- プログラムや体験の内容、コースは、区と委託業者で調整した素案を基に、区、委託業者、参加者の代表などにより、研修会を行う現場を確認しながら打合せを進め、参加者側の要望や意見などを取り入れながら決定している

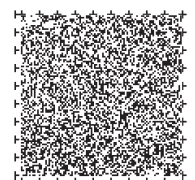
その他

- 参加者の9割以上が高い満足度であったと回答
- 27年度は事業の一部を社会福祉協議会の協力により実施するとともに、教育委員会との連携による研修会をモデルで2校実施、その状況により次年度以降の拡大について検討するなど、地区社協や教育委員会とも連携
- 講義の内容を盛り込んだDVDを作成し、今後の研修会で活用

※おたがいさま運動・・・困っている人がいたら助ける。困ったときは「助けて」と言える。そんなことが当たり前ができる「支え合いのまちづくり」をみんなで進める運動



補助犬ユーザーによる講話





「地域住民を対象としたユニバーサルデザインワークショップ等」取組事例②

ユニバーサルデザイン普及啓発事業（世田谷区）

取組内容

- 障害者団体も参画し、協働でイベントを企画
- 企画段階で、計4回の打ち合わせを実施
- イベントは、区民参加のワークショップ形式により実施
- 車いす体験、アイマスク体験といった一般的なものに加えて、ゴールボール体験、点字名刺の作成体験などを実施
- 聴導犬に関する講話や簡単な手話の体験、障害者との交流なども実施し、障害について幅広く学べる内容にしている

取組のポイント

- 障害者団体も参画し、作業を進めていくことで、イベント開催による普及啓発に加え、ユニバーサルデザインに関わる区民等の養成を行うことが可能
- 最初のワークショップで、前年度の振り返りを実施し、その反省等を踏まえた上で、当該年度のプログラムについてアイデアを出し合っていく
- 最初に前年度の振り返りを行うことで、メンバー内での情報共有が図られるとともに、理解が深まり、アイデアが出やすくなる
- 参加者が体験や学習に集中できるよう、事前準備、ワークショップの運営、資料作成等の裏方業務については、ノウハウを持っている事業者に委託している
- 小さい子供でも楽しく体験しながら学べるよう、スタンプラリー形式を採用している

参加者からの声

- 「体験により気づきが得られる」との声が多かったほか、「知っているつもりだったが、初めて聞くこと、体験することばかりだった」、「障害者とじかに接してみても初めて気づくことがあった」などの感想があった



企画の前に前年度の振り返りを実施



子供たちに大人気のゴールボール体験

